

阿東地域

阿東地域づくり協議会

★活動の概要

地域づくり協議会設立初年度(平成23年7月30日設立)として、さまざまな活動を展開しています。

★交付金額

6, 181, 044円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	7, 283人
世帯数	3, 169世帯

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 自主防災啓発事業

災害に強い地域づくりを目指し、「自主防災組織」の立ち上げ支援のために研修会を開催しました。そのうち、4自治会が当該年度で自主防災組織の認定を受けました。

また、徳佐地区では、婦人会を中心に、実践を意識した取り組みとして、炊き出し訓練を実施しました。

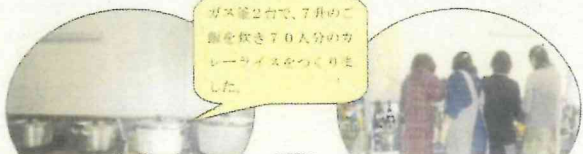


徳佐地区自治会より4名見学に来られました。



炊き出し訓練

ガス釜2台で、7升のご飯を炊き70人分のカレーライスを調理しました。



災害に備えてリーフレット作成!



■ 環境美化啓発事業

道路沿いの駐車スペースへの不法投棄を抑止するため、地区の子どもたちから募集した環境美化標語掲げた看板を設置しました。



■ 地域見守り活動

さくら小学校の登下校の児童を見守る地福婦人会の活動を支援するため、委員が分かるようにジャンパーの購入支援を行いました。

水曜日の集団下校時に、会員が児童の見守り活動を展開することにより、児童の安全確保に努めています。



■ 地域いきがづくり事業

地域の「子育て事業」として、絵を張って物語を創作できるようなパネル等の整備を行い、地域の読み聞かせグループの活動支援を行いました。



■ 交流促進事業

地域が笑顔で元気いっぱいになるよう、「笑顔のまちづくり事業」として、地域内の住民全員の顔写真を撮影し、地域交流センター嘉年分館に展示しました。



地域内ほぼ全員428人の「えがお」写真を撮影し、この中から、「えがお大賞」を選定するなど、大いに盛り上がりを見せました。

一人暮らしの高齢者が多くなる中、互いの交流活動に大切な役割を果たしています。



徳地地域

徳地地域づくり協議会

★活動の概要

地域内の131自治会と地域で活動している23団体を構成員として、平成21年6月に徳地地域づくり協議会を発足し活動しています。

★交付金額

14,955,920円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	7,076人
世帯数	3,118世帯
地域のキャッチフレーズ	豊かな自然と里山が調和した やすらぎとふれあいのまちづくり

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 地域交流事業

毎年11月の第1日曜日に、「活力と潤いに満ちたふるさとづくり」を目指し、地元住民はもとより都市部の住民との交流をも深めるとともに、地域の活性化を図るために「徳地フェスティバル」を開催しています。



■ 広報活動

徳地地域の情報発信を行う地域広報紙「ふるさととくじ」を、地域住民(「徳地づくり達人塾」)とともに協働で作成し、毎月1回発行しています。

地域の情報収集については、取材から編集まで一括して地域住民が行っています。



■ 各地区での活動

徳地地域では、出雲、八坂、柚野、島地、串の各地区でもそれぞれ活動が行われています。

■ 健康増進活動事業

各地区の特色を生かしたウォークラリー、歩こう大会を実施し、地域住民の健康増進と他地域との交流を盛んに行っています。



※ 歩こう大会は、出雲、八坂、柚野地区でも実施しています。

スポーツを通じて地域住民の体力向上を図るとともに、住民同士の交流と地域連携を深めるための体育行事を実施しています。



■ 環境美化活動事業

地域をあげての清掃活動を行うことにより、住民同士の心のふれあいと、住みよい生活環境を自らつくるという意識を高めています。



【今後の地域づくりに向けた思い・取り組み】

徳地地域は少子・高齢化や過疎化が他地域に比べて進んでおり、これまで培ってきた近隣の相互扶助、地域内の交流、祭りの継承など、様々な分野で影響が出始めています。

地域住民がみんなで地域について考え、「住みやすく、いつまでも住んでいたい地域」をつくりたいと思います。

仁保地域

仁保地域開発協議会

★活動の概要

昭和45年から「むらづくり」に取り組んできた仁保地域開発協議会が地域づくり計画を策定し、地域づくりに取り組んでいます。

★交付金額

8,953,519 円

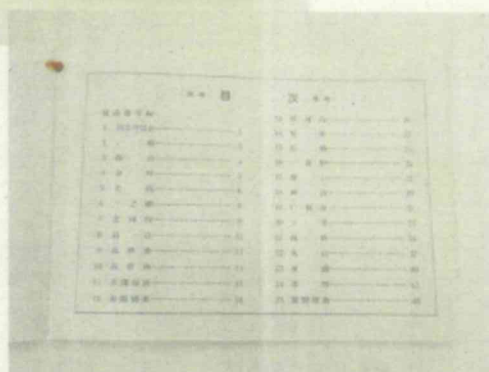
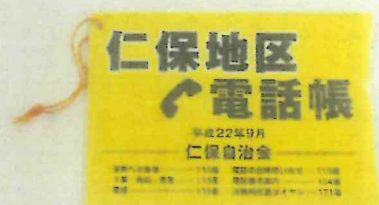
★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	3,422人
世帯数	1,379世帯
地域の キャッチフレーズ	心が通う 住みよい地域づくり

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 仁保地区内電話帳作成事業

地区住民の相互コミュニケーションの促進や災害時等の安全確認のために、地区内の約9割の世帯が参加した地区内の電話帳を作成しました。



※ 電話帳は集落単位になっていて、高齢者にも見易いように、大きな文字で印刷しており、地域内住民相互の連絡にとっても便利と好評を頂いています！

■ 防犯対策事業

各集落内における防犯灯は整備されていますが、他地区とつながる道路や、一部の通学路等で途切れた箇所があったので、地域づくり交付金を活用し、新たに2箇所の防犯灯を設置しました。

※ 地区外に通学する高校生やその親御さんたちからたいへん喜ばれています！



仁保駅入口

深野から宮野に通じる長谷峠



■ 不法投棄防止事業

仁保では、安心・安全で住みよい地域づくりを進めるため、全集落で集落点検を実施しています。

ごみの不法投棄箇所の清掃を地域ぐるみで実施するとともに、不法投棄の抑止に効果があるオリジナル看板を設置しました。

仁保地域内
6箇所に設置



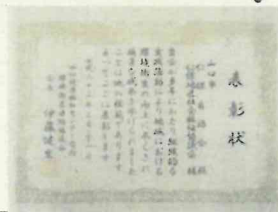
■ 美しい環境づくり啓蒙事業

仁保では、毎年「空き缶ゼロの日」を設け、地域をあげて環境美化に取り組んでいます。

今年は、ごみを拾うだけでなく、ポイ捨て防止を呼びかける「たすき」を作成し、これを着用して環境美化に対する啓発をしました。



※本年3月、仁保地域の
この取り組みが、県の
環境衛生連絡協議会
から表彰されました。



■ 地域の名所看板・案内板作成事業

地区内外の交流による地域活性化を進めるため、地域情報発信の一手法として地区内に看板・案内板を作成・設置しました。

仁保地域の代表的な交流拠点である道の駅に、仁保地区全体の案内板を設置するとともに、各集落の名所周辺に看板を設置しました。(看板の設置は地域住民が行いました)



道の駅 仁保の郷
の案内板

※同じデザインの
チラシも作成しました



各集落の名所周辺に看板を設置



小鯖地域

小鯖地域づくり協議会

★活動の概要

コミュニティー推進協議会から地域づくり協議会へ名称変更し、5専門部会を中核とした活動を展開しています。

★交付金額

8,389,542円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	4,738人
世帯数	1,706世帯

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 小鯖っ子見守隊(安心・安全)

8月26日に「小鯖っ子見守り隊」を発足しました。

主な活動は、小学校低学年を最重点として、登下校時に通学路での立哨や、児童といっしょに歩いたりして、地域の人々が協力して子供たちの安全を確保しています。

見守り隊であることがすぐにわかるように、地域づくり交付金で、帽子とベストを購入し、活動の時には着用しています。

(会員数157人)



見守り隊の活動は、小学校や保護者の方に大変喜ばれています。

■ 花壇整備(環境づくり)

山口国体を契機に花いっぱい運動を推進しています。

その事業の一つとして、地域づくり交付金を活用して、町内会や子ども会でお世話している花壇の整備にかかる経費に対して助成を行いました。

各団体で、苗や肥料の購入や、看板を取り付けたりして、立派な花壇に生まれ変わっています。

(平成22年度実績:11団体に助成)



■ 正田山環境整備(環境づくり)

正田山にある水道タンクの壁画は、塗装されてから長い年月が経っていたため、色あせや色落ちが進んでいる状態でした。

そこで地域づくり交付金を活用して、壁画を塗り替えることにしました。

今年度は1階部分を実施し、当日は、30人のボランティアによる巧みな刷毛さばきにより、水道タンクの壁画は鮮やかに蘇りました。

(10月30日実施)



平成23年度は、2階部分を塗装する予定で、水道タンクのお色直しが完成します。

■ 小鯖夏まつり(地域個性創出)

小鯖の夏の風物詩となった小鯖夏まつりも、今年で第25回を迎えました。

昨年度は豪雨災害により中止となってしまったこともあり、今年度は、特別な思いで小鯖夏まつり実行委員会を中心として、地域一丸となって取り組みました。

特に、地域づくり交付金を活用した大阪のストリートパフォーマーによる素敵なエンターテインメントは、子供からお年寄りまで笑顔があふれ、まつり全体が大変盛り上がりしました。

(8月14日開催)



「ストリートパフォーマー『カナ』によるショー」

小鯖の夏の一大イベントの小鯖夏まつりが、地域に愛されるまつりとして続いていくよう、力を合わせてがんばっていきます。

大内地域

大内まちづくり協議会

★活動の概要

試行錯誤を重ね、一進一退の活動を展開しながら、大内まちづくり計画(5ヵ年)に沿った活発な活動を推進します。

★交付金額

13,619,927円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	22,386人
世帯数	8,892世帯
地域の キャッチフレーズ	ふるさとを愛し、笑顔 でふれあうまち大内

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 第32回 大内まつり

大内地域住民のみならず、近郊の地域からも多数の来場者があり、延べ3500人参加の盛大な春祭りとなりました。

日ごろの生涯学習活動の成果の発表の場でもあり、地域の連帯感の向上または、さらなる活性化につながる内容となりました。

来年度は東日本大震災の復興支援チャリティイベントに変更して、実施予定です。



■ 大内まちづくり計画策定委員会

将来の大内地域の基本的な方向性を明らかにするため、計7回の策定委員会を開催し、「大内まちづくり計画(5ヵ年)」を策定しました。

大内まちづくり計画の具体化に向け、23年度からは部会編成を組み直し、実施計画を具現していく予定としています。



■ 大内っ子まもり隊



子ども達の下校時における安全確保を図るため、子どもと寄り添って歩きながら、見守る活動を展開しています。

まもり隊の結成から約5年が経過し、当初から活動していたメンバーの高齢化が進み、協力者の確保が年々難しくなっていますが、主メンバーの老人会クラブをはじめ、自治会や PTA などの協力により、引き続き活発な活動を展開していきます。



■ 第58回大内地区健康体育祭

歴史と伝統のある町内対抗運動会を開催し、子どもからお年寄りまで、約3000人の参加により、盛大な盛り上がりを見せました。地域住民の体力づくりと心のふれあいの場を提供する場づくりを積極的に展開していきます。



【今後の地域づくりに向けた思い・取組み】

より豊かで住みやすいまちづくりへ向けて、大内まちづくり協議会を中心に住民の意見を集約しながら、地域課題の解決等に向けて、交付金の有効的な使い方を探っていきます。

宮野地区地域づくり協議会

★活動の概要

「みんなに やさしい のびゆく まちづくり」を基調に地域住民及び各種団体の連携・融和を図り、地域課題の解決に向けた活動を活性化し、地域づくりの推進を図ります。

★交付金額

10,084,472円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	15,731人
世帯数	6,789世帯
地域の キャッチフレーズ	みんなに、やさしい、 のびゆくまち

■ 宮野お宝コンテスト

宮野の歴史・文化・自然を題材とした写真コンテストと写真展を開催しました。

住み慣れた「ふるさと宮野」の名勝・旧跡・文化や自然を表現することで、宮野地域を広くアピールできる作品を広く公募し、地域のすばらしさを表現した写真 69 点(20 人)の応募がありました。

審査員長に写真家の栗林和彦氏を迎え、厳正な審査のもとに、優秀作品 3 点が決定しました。

引き続き写真コンテストの開催により、地域の方に宮野の良さを再認識してもらうとともに、地域の活性化にも活用していきます。



■ さくらの里づくり

平成21年度より「ガンバル地域特別支援交付金事業」により、「宮野の里を名実ともに“サクラの里”にしよう」と、サクラの保護や保育に取り組んでいます。

木戸山公園や宮野小・中学校の校庭、県立大学キャンパス、荒谷ダム湖周辺など計 3853 本のサクラが地域に植えられていますが、最近では病気による樹勢の衰えや枯れ枝が目立ってきていることから、「てんぐ巣病」にかかっている樹の伐採や枝打ち後の葉の塗布を行う活動を行っています。さらに、地域の憩いの場となっている木戸山公園に病気に強いサクラの植樹を行いました。

今後、自然に親しみ自然を理解する場として体験学習などの機能強化を併せて普及させていきます。



■ AED・救急救命講習会

山口市消防本部の講師によるAED・普通救命講習会を開催しました。

救急救命の重要性を理解し、災害時だけでなく、緊急時の対応に備えるため、特に高齢者に接する機会の多い民生委員、福祉委員を対象に技術を習得しました。

今後、講習会を重ね、広く一般の住民にも技術を習得していただき、自然災害時等には、即座に対応できる体制を整備していきたいです。



■ 子どもと高齢者の交流会

子どもと高齢者が交流して宮野の昔遊びと注連縄作りに挑戦しました。

世代間のふれあいを通し、昔の遊び(独楽回し・凧づくり)やお正月を迎える技(しきたり等)の伝承ができました。

高齢者の知恵と技を生かした生きがい対策に最適であり、地域内の交流にも適した活動となっています。

今後、宮野の“わらべ歌”や“むかし話”などを掘り起こし、次世代を担う子どもたちに伝承していきたいと考えています。



【今後の地域づくりに向けた思い・取組み】

「みんなに やさしい のびゆく まちづくり」

自然に囲まれた、あらゆる世代にとって住みやすく、誰もが地域づくりの活動に参加していけるような“仕組み”づくりを目指します。

大殿地域

おおどのコミュニティ協議会

★活動の概要

大殿地区では、平成20年6月に協働のまちづくり条例に合わせ、3年次計画の基本的方向を設定した上で、活動を進めています。

★交付金額

6,965,335円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	7,278人
世帯数	3,250世帯
地域の キャッチフレーズ	ゆったり にっこり きらり

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

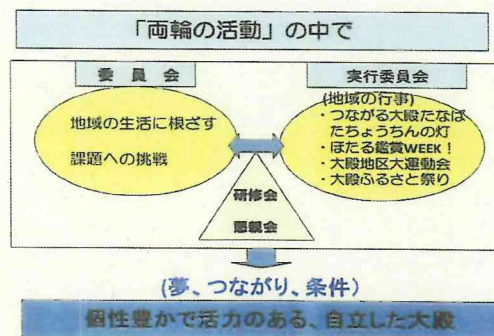
■ 地域個性創出事業

「つながる大殿七太ちようちんの灯」と題して吊いの灯、祈りの灯、願いの灯として歴史と結び、心の灯として、在住の人たちと結び合い、市の活性化を願う行事として協議会全体で取り組みを進め、3年目を迎えています。



■ 地域コミュニティ推進事業

委員会の活動と地域の祭りなどに参画しながら活動する中で、自治力をつけることと同時に、研修親睦を積み上げることが大切と考えました。



■ 大殿地区安心安全のつどい事業

交通事故防止・火災予防の環境づくり・防犯意識の高まりを求めるために、安心のまちづくり委員会と、消防後援会が連携して委員会の活動として開催しました。

古い消火器の回収も行いました。

(安心安全委員会)



旧消火器回収



■ 地域福祉計画策定事業

大殿地区地域福祉活動計画「ともいきプロジェクト」を作成し、大殿地域全戸に配布しました。

住民座談会を経て、団体の枠を超えて地域の課題解決にとりくむ機会となりました。

(健康福祉委員会)



大殿地区社会福祉協議会

■ 大殿地区三世代交流大運動会



老人クラブを中心に多世代の交流を図ることができました。

【今後の地域づくりに向けた思い・取組み】

おおどのコミュニティ協議会発足から3年目を迎え、団体枠を超えて、つながる良さに目が向き始めてきています。

協議会を広く認識し、活用し、真の自治的集団となるためには、「ゆったり にっこり きらり」の合言葉で「つながりと絆」を作り上げていくことが大切だと考えています。